

那須町の戦後開拓

1 那須町の戦後開拓の担い手

戦後開拓は、戦後の日本において食糧増産、復員軍人・海外引揚者・戦災者の就業対策として行われた国策事業です。那須町では、20 を超える開拓組合が組織され、農業や酪農に従事しました。

町内に入植した人々は、様々な出自を持っています。千振開拓は、満州で開拓をしていた第2次千振開拓団が中心として入植しました。他にも満

州開拓の由来をもつ開拓組合として、那須大谷開拓（阿城大谷開拓団・山形県旧大谷村出身者）、大同開拓（一裸樹開拓団＋凌雲義勇団ほか）、夕狩開拓（帽子山開拓団＋常民科学協会）などがあります。

それ以外にも、大日向開拓は八丈島・硫黄島などからの強制疎開者が中心となり、中原開拓は銚田教導飛行師団の将校・兵士らが、外務那須野は中国から引き揚げてきた外務省官僚らが町内で開拓を行いました。

2 酪農

当初畑作を中心に開拓が行われましたが、相次ぐ冷害などのため思う様に生活ができませんでした。そこで気候や風土に影響されにくい酪農が広まり、現在では日本有数の酪農地帯となりました。酪農の始まりは、那須大谷で昭和22年（1947）に乳牛6頭を、千振では昭和24年（1949）に乳牛15頭を導入したことが始まりとされています。現在、日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚」の構成文化財の1つである南ヶ丘牧場は、那須高原開拓から始まり、酪農へ転換した牧場であり、那須町の戦後開拓の象徴ともいえます。

3 住宅・電気

開拓者の生活は想像を絶するものでした。当初7坪の住宅が与えられたましたが、木を切り倒し、製材して住宅を建設した話も伝わっています。電気は地区により通電時期が異なり、自力で水力発電を建設した開拓地もありました。大同開拓では昭和38年（1963）にようやく東京電力から電気が通りました。



『千振開拓七十年のあゆみ』より



強風被害を受けた開拓者の住宅

【戦後開拓関連文化財】

- ・南ヶ丘牧場…那須高原開拓が由来。創始者の岡部氏は旧満州での開拓を経験
- ・開拓碑…千振開拓の記念碑。平成17年には上皇上皇后陛下が行幸啓されています。

